

基本テーマ：新しい時代の学びを実現する学校施設に求められる機能

みんなで創る、みらいの学びを実現する「学び場」

雄武町においては、基幹産業である漁業や農業の産出額が堅調に増加するなど、まちづくりは順調に歩んでいると言えます。一方で我が国では、少子高齢化の進展と大都市への人口集中が続いており、雄武町でも人口減少が続いています。雄武町は、オホーツク海と広大な草地などの資源を今後も守り続けるために、基幹産業を維持・強化するとともに、安心していきいきと暮らし続けられることに努め、人口減少に歯止めをかける必要があります。

私たちはこの状況を踏まえ、人口減少の歯止めとなることや同時に児童生徒の減少にも対応し、子どもたちや地域住民が郷土愛を持ち、希望と自信を持って、持続可能でみらいにつながる学び場を実現することを目指します。

01 学び

個別最適と協働的な学びの一体的な充実に向け、創造的な学習空間

学年、習熟度、身体等の違いを認め、違いを大切にし、【個別での学びの充実】と【多様な対話の場】を創出することにより、協働的な学びにつなげます。また、自らよく考え、進んで学習に取り組む事が可能な学べる居場所を校内にちりばめ、学びへの意欲が高まる学習環境の仕掛けや場をつくります。

<具体的な取り組み方針>

- 普通教室は習熟度別に対応でき、**机のレイアウトを自由に変えて授業ができる教室**を提案します。
- 多目的室には、可動間仕切りを設置**し、数室に分けて使用できるようにし、**様々な用途に対応が可能な提案**とします。
- 多様な居場所として DEN の設置**や各学年が交じり合うことのできる空間として、**ワークスペースやラーニングセンター内で交流できる空間**の設置を提案します。
- 学習ラウンジを散りばめ**、設えとしてオープンなスペースや**学習に集中できるカウンター**の設置など学習環境の充実を図ります。

02 生活

新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間

子どもや教職員は一日の大半を学校で生活することから、快適な空間が求められます。明るく開放的な空間を創出します。また、高機能な設備機器や自然エネルギーの活用により快適な室内環境をつくります。

<具体的な取り組み方針>

- 各室に自然光を積極的に取り入れること**や**圧迫感のない空間づくり**を提案します。
- 内部空間は、**リラックス効果や調湿性の機能を持つ木材**を使用し、快適な空間を提案します。
- 教職員が、休憩やリフレッシュのできる空間**を提案します。

03 共創

地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間

地域と連携した教育環境づくりを進め、まち全体のコミュニティの拠点として、世代や立場を超えてともに創造する空間づくりを目指します。

<具体的な取り組み方針>

- ラーニングセンター内に**漁業や畜産の産業や観光などの情報を発信するスペース**や**産業関係者が読み聞かせ・レクチャーのできるスペース**を提案します。
- ワークショップを通じて、**地元産の木材やホタテの貝殻など**について、新しい学校への活用を**共に創造することが**できる場を設けます。
- 上記のことなどにより、子どもたちが**地域風土を常**に感じ、**愛着のあるものとなる学校**とします。

04 安全

子どもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境

学校は子どもの命を守り、避難所となる施設でもあることから、大地震後構造体に大きな補修することなく建物を使用でき、人命の安全確保に加えて機能確保が図られることとします。また、利用者誰もが安全・安心して使える施設としてユニバーサルデザインを徹底します。

<具体的な取り組み方針>

- 建物構造体は耐震安全性分類の重要度係数Ⅱ類 1.25、非構造部材は A 類として設計します。
- 避難所として災害時にあらゆる対応が可能**になるように様々な防災設備や備蓄庫の設置などを検討します。
- 地域住民利用も踏まえ、**セキュリティラインの設定や歩車分離**などを行うことにより、安全な環境とします。

05 環境

脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境

脱炭素化となる学校づくりを目指し、木材の活用や施設の機能を向上させ、「Nearby ZEB」の認定を目指します。

<具体的な取り組み方針>

- 太陽光、地中熱、バイオマス、風力の再生可能エネルギーについて、活用**することを検討します。
- 高効率な**省エネルギー設備機器の利用と自然エネルギーも積極的に建築物に取り入れ**、エネルギー利用の効率化を図ります。舗装や植栽などエネルギーに影響する外構についても提案します。
- 中央制御システムを採用**し、エネルギー管理の効率化を行います。
- 地元産の木材の活用により脱炭素化に寄与**し、さらに**木育にもつながる空間**を提案します。
- 環境問題や脱炭素について、地域の人たちも含め語り合うこと**や**情報を発信できるスペースをラーニングセンターに設置**し、環境問題などについて啓蒙する場を設けます。

◇中長期的な児童生徒数の減少に対応できる学習空間

- 教室 1 室の中間に**移動間仕切り**を設置できるような計画として児童生徒数の減少に対応します。
- 増築校舎棟は、**将来町民利用を想定し、多目的なプランニングに対応**できるように配慮し、計画します。
- 既存校舎改修による教室においても**将来間仕切りができるように計画**します。
- 室が増えた場合において、**各室で個別に対応できる設備**を計画します。
- 防火区画など将来間仕切りを可変することを考慮して、法的に影響が出ないように計画します。

特定テーマ①：建設予定地及びその周辺も含めた敷地活用

地域とともにある学び場

新しい学校は、地域が支え、見守り、子どもたちとともに学習する学校とするために、武道センターやスポーツセンター等近隣施設との複合化や、周辺敷地の活用を検討し、地域とともにある学び場となるように整備します。

無駄のない実現可能な整備計画

「増築＋改修」を基本とし、**既存小学校を活用した整備方針**で計画を提案します。
・**新築の場合、プランニングの自由度は増築＋改修に比べ高いです。**

- 既存校舎を改修して活用**することで、**建設費の中でも大きな割合を占める躯体工事費の削減**を図るとともに、**工事期間や環境負荷の低減**にもつながります。
- 補助金を活用し、全面新築を行う場合には、建物や敷地に問題があることを示す必要がある**と思われます。既存小学校は新耐震基準の建物であり、既存中学校は耐震診断の結果問題がないことがわかっています。**既存小学校は、長寿命化において健全度も保たれており、問題なく使用できると判断し、比較の上既存小学校を活用した整備方針**とします。ただし、明確な判断を必要とする場合は、今後、耐力度調査を実施することも検討します。

既存小学校を中心とした整備計画

- 小学校敷地は、市街地側に位置**しており、多くの児童生徒が、登下校がしやすく、**地域住民もアクセスが容易**です。
- 小学校の校舎は、中廊下型**であり、中学校と比較し、**多様な教育を行う空間（ワークスペースの設置など）を整備しやすい**と考えます。また、長寿命化計画においての**建物健全度が小学校の方が高い**。
- 既存小学校には給食センターが直結**しており、比較的新しいこの給食センターを引き続き利用です。
- グラウンド機能は、トラックの大きさを考慮して、中学校敷地を活用**します。
- 工事期間中は、**中学校舎に小学校を移転し活用**することで、**仮設校舎の設置も無く、工事費を抑えながら整備を進める**ことができます。

交流を促すゾーニングによる配置計画

- 小学校敷地と共に中学校敷地も活用した配置計画とします。
- 学校機能を配置した「**学校ゾーン**」、まちのコミュニティの拠点となる「**地域交流ゾーン**」、中学校跡地も含めた「**スポーツ交流ゾーン**」としてゾーン分けしながらも、**つながり交流できる施設配置**とします。
- 既存小学校舎を改修して活用するとともに、義務教育学校として不足する部分を既存校舎の北側に増築し補完します。**学校の図書室は、生涯学習センターと複合化**し配置します。**屋内運動場をスポーツセンターと武道センターと複合化**して配置し、**地域利用にも対応可能な施設計画**とします。
- ゾーンごとに出入口や駐車場を分けて配置し、歩車分離の動線を設定**し、安全で利便性の高いアプローチとします。

